



わたしたちの村

# かわかみ

川上村教育委員会  
川上村立川上小学校

この表紙の絵

原画は岡崎良男前村長の

第一美術展入選作品「長門峡」です









阿武川ダム



長門峽 (紅葉橋)



阿武川歴史民俗資料館



たけいだに 緑の村

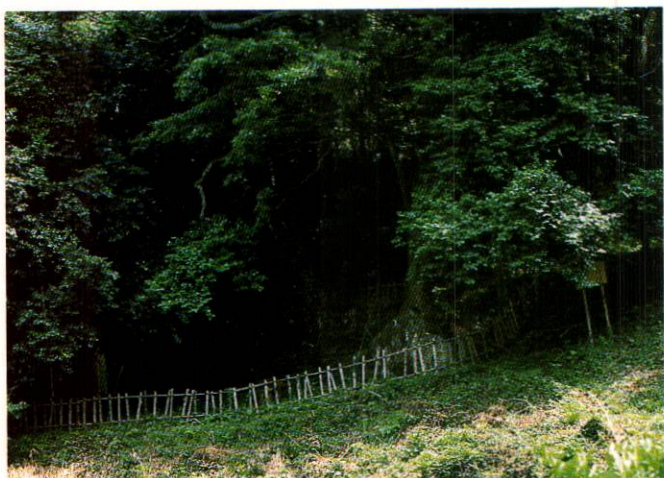


川上すぎのこ村





ゆずなんてん自生地（国指定天然記念物）

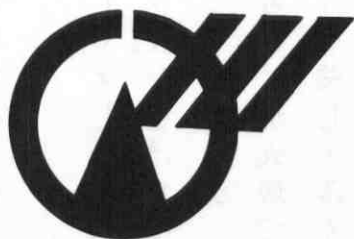


椿瀬のつばき（村指定文化財）

わたしたちの村

# か わ か み

(改訂版)



村 章

(由来) 村名「川上村」を図案化したもので、山と川と湖(ダム)の自然の美しさに恵まれた村をあらわします。円は団結を、羽根は三訓の誇り責任と希望、飛躍発展を意味しています。

昭和42年3月15日 制定

## わたしたちの村

### 川上を正しく知ろう

わたしたちがすんでいる村は、四季おりおりにかわる景色が美しく、その山あいをきれいな水が流れ、とてもすみよい村です。

それは遠いむかしから、わたしたちの祖先が生きるために工夫をこらし、さらにすみよい村にするため、いっしょうけんめい努力して今日にいたりました。

わたしたちは、このすばらしく美しいかわかみをますますすみよい豊かな村にするために、力を注<sup>そそ</sup>がなければなりません。そのためには、この村がどのようなようにしてできたのか、また、これまでにどんなあゆみをしてきたのかわかることが大切です。

よいこのみなさん、しっかりと勉強してみんな仲よく力を合わせて、りっぱな村に発展させてくれることをねがっています。

川上村長 平<sup>ひら</sup>野<sup>の</sup>演<sup>のぶ</sup>清<sup>よし</sup>

このたび小学校の社会科副読本「かわかみ」の改訂版ができて上がりました。この本が出来上がるためお世話された方々に、あつくお礼を申し上げます。

この本はわたしたちの村川上と、村に関係のある萩市のことについて、昔からのうつり変わり、最近の新しいことまで、まとめてわかりやすく書かれています。

この本を読まれるみなさんが、子供たちばかりでなく、ふるさとのよさを見なおし、さらにこれを発展させて行くのに、少しでもお役に立てばと思います。

昭和六十一年九月

川上村教育長 福 永 義 晴



もくじ

一	わたしたちの村 川上	1
(一)	川上村のすがた	2
(二)	村の中心地区	6
(三)	国道にそつた地区	9
(四)	立野地区	10
(五)	山間の地区	13
(六)	ダムにすぎんだ地区	16
(七)	よその町や村とのつながり	17
(八)	萩市のすがた	21
二	川上村の人びとのしごと	
(一)	川上村の人びとのしごとしらべ	25
(二)	田や畑のしごとと畜産	27
(三)	山のしごと	36
(四)	いろいろなしごと	43
(五)	萩市の人びとのしごと	47



三 けんこうで安全な生活

- (一) 村民のつかう水……………56
  - (二) ゴミのしより……………58
  - (三) けんこうを守るしくみ……………59
  - (四) 火事をふせぐ……………62
  - (五) 大水をふせぐ……………65
- 四 すみよい村に

- (一) 村役場と村議会……………69
  - (二) 教育委員会……………72
  - (三) これからの計画……………73
- 五 村のうつりかわり

- (一) かわつてきた学校……………75
- (二) むかしの川上村……………78
- (三) くらしのうつりかわり……………86
- (四) これからの川上村……………90

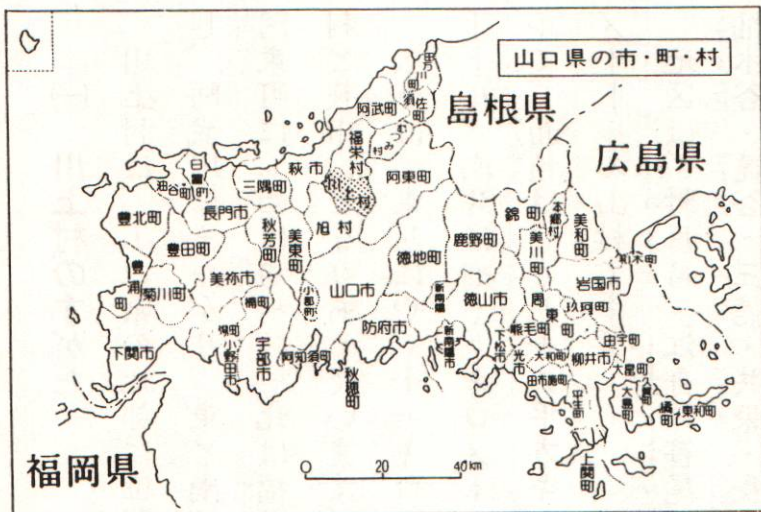
六 村の民話

- (一) 長者が原の長者……………93
- (二) 空かける魔鬼……………95

川上村の歴史年表……

あとがき……

一、わたしたちの村 川上



わたしたちの村 かわかみ

学習することがら

- 自分たちのすんでいるところが、山口県の地図から見て、どのような位置にあるでしょう。
- わたしたちの住んでいる村のようすについてしらべてみましょう。
- ・学校・公民館・自分の家は、どの方向にあるでしょう。
- ・道や川はどこにつながっているのでしょうか。
- 学級の友だちが、どの地区からかよっているかしらべてみましょう。
- 自分たちがすんでいる地区と友だちのすんでいる地区とが、どのようにちがっているかしらべてみましょう。
- 自分たちのすんでいるところを絵地図にかいてみましょう。





椿瀬つばせからなっています。

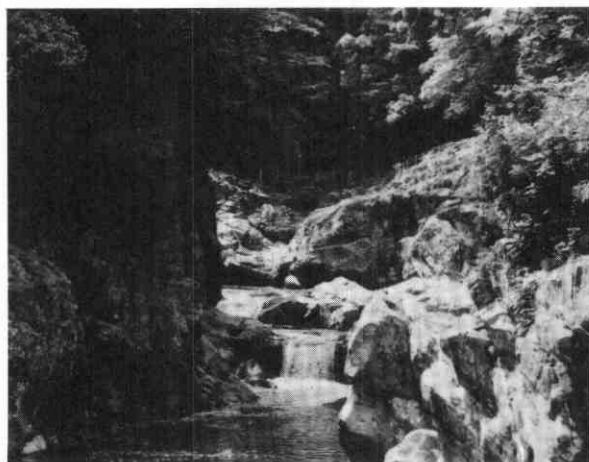
中国山地の西のはずれ近くにあって、江舟岳・貞女ヶ岳・碁盤ヶ岳ごばん・野地ヶ岳のぢなど、五百メートルより高い山や急な山がたくさんあります。むかしから、

林業のさかんな村で、りっぱなスギやヒノキが、たくさん造林ぞうりんされています。

阿武川は、中国山地の山おくから、多くの谷や集落を通って、やく八十二キロメートルにわたって流れています。

この川には、支流しりゅうがたくさんあり、村内にも野戸呂川・江舟川・佐々並川ささなみ・遠谷川・明木川あき・立野川たちのなどがあります。

田や畑は、阿武川やその支流のりょうがわ



名勝 長門 峡

にあり、そのおもなものは、野戸呂・三徳・山田・立野地区にあります。

阿武川の中流は、水の流れが岩石をしんしょくして、めずらしい形の岩をつくっており、国指定の名勝「長門峡」になつています。また、岡地区のか

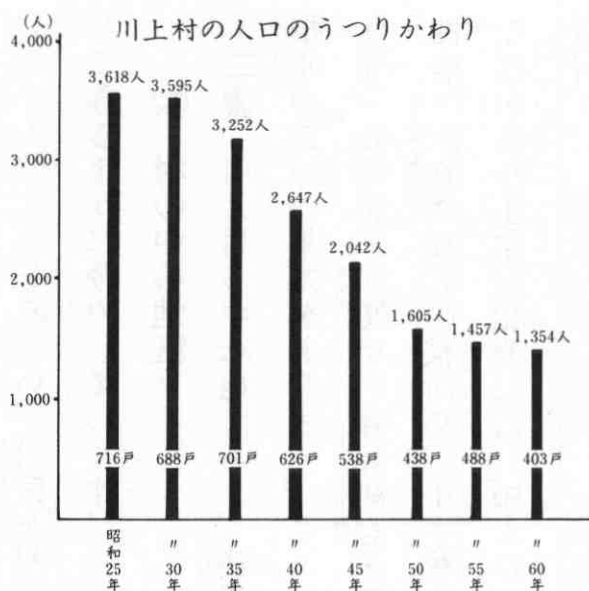
みには、川の流れをせきとめ、県営の大きな阿武川ダムがつくられています。

一年中の平均気温は、十三度くらいで、すみよいほうといえます。しかし、冬は、西よりの北風が強く、気温も下がって寒く感じます。雪は、十二月から二月にかけ、五センチメートルから、十五センチメートルぐらいの積雪が、二・三回みられます。

川上村は、およそ千四百人の人がすんでい

地区	世帯数	人口	地区	世帯数	人口
佐古	26戸	90人	共栄	43戸	170人
山田	48	158	遠谷	21	67
立野	38	126	笹尾	23	92
白上	26	85	杉木谷	18	56
椿瀬	12	52	江舟	21	59
横坂	29	109	野戸呂	32	77
長谷	9	43			
三徳	57	170	村全体	403	1,354

地区別の家のかずと人口（昭和60年度）



ます。地区では、山田・三徳・共栄・立野・横坂に人口が多く、村の二分の一をしめています。

川上村は、美しい山と川のある村です。大正のはじめごろまでは、多くの

人が、男は炭やき、きこり、いかだ流

し、川舟の船頭せんどうなどをし、女は田をつ

くるほか、かいこをかっていました。

時代のうつりかわりにより、農業のうぎょうや

山のしごとだけでは、くらしをたてて

いくことができせん。そのため、村

の外へ出て、いろいろなしごとをする

人がふえました。村では、公害こうがいのしん

ぱいはありませんが、人口のへること



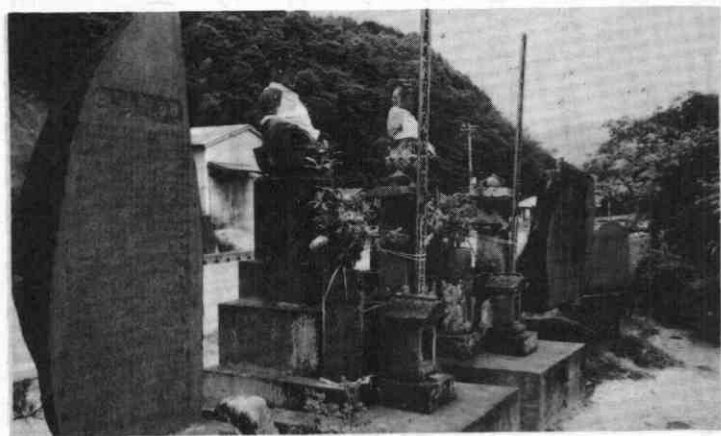
がなやみです。そのため、そんみん村民が村の中ではたたらけるところや、たの楽しく生活  
ができるように努力どりましています。

## (二) 村の中心地区

三徳 川上村の中心地であり、いなかば筏場・はいふく灰福・

あいはら相原の三つの集落があります。ここには、村  
役場・公民館・郵便局・しんりんくみあい森林組合・きようどう農業協同  
組合・ちゆうざいしよ駐在所などの役所や、小学校・中学校  
などがあります。相原には、田もひらけてい  
ます。

阿武川のほとりの県道（相原）には、にぎ二義  
民の碑ひがあります。これは、もうり毛利の殿様とのさまのと  
きに、さかや萩の酒屋が、川島の太鼓湾たいこわんで、川の水



二 義 民 の 碑





をつかつて、水車場をつくり、酒米をつくことにしました。ところが、川上の人びとは、川舟で炭やまきなどが、菘にはこばれなくなつたので、毛利藩の役人にこうぎしました。そのときに、藤原平助と岡崎権左衛門（権太）の二人の百姓は、村民の代表となつて、話し合いました。そのけつか、多くの人がとらえられ、二人は身代わりとして、打ち首になりま

像したが、水車場は、とりのぞかれました。そこで村民は、その勇ましいおこないに感じ、二義民としてまつりました。

灰福の玉泉寺には、県指定

有形文化財「びしゃもんでん像」があります。

遠谷 この地区は、遠谷川にそつて家があります。昔、銅の鉾山があつた

金山には、ナンテンやユズが、たくさんはえており、これらの自生地は、国

の天然記念物に指定されています。学校林も

この地区にあります。

共栄 阿武川ダムの下流には、川をはさん

で、熊谷・舟戸・岡・木ノ瀬の四集落があり

ます。ダムサイトには、ダム管理事務所と新

阿武川発電所があり、近くには、阿武川歴史

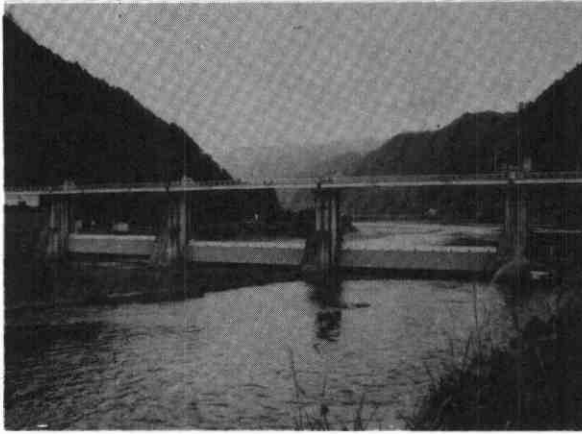
民俗資料館があります。ここには、水の底に

しずんだ集落を中心に、村民の祖先が、生活

につかっていた、かず多くの民俗資料が保存



阿武川歴史民俗資料館



相原逆調整ダム

してあります。岡には、佐々並川発電所があります。

**長谷** 相原のむこうぎしにある長谷川の上流にある地区で、おもに、農林業をしています。ここの田は、たな田とよばれる、だんだん田がつづいてい

ます。

### (三) 国道にそつた地区

**山田** 山田・京床きやうとこの二つの集落からなり、

国道二六二号線ごうせんをはさんでおり、田もひらけています。この地区には、相原逆調整あひらちようせいダムがあつて、阿武川の下流の水量りようを調整しています。新阿武川発電所をかんだりすると、ころもここにありますが、萩はぎに向つて行くと、阿武川のほとりに、碎石場さいさいと生コンクリート工場なまがあ

ります。

国道二六二号線は、萩市から山口市・防府市ほうふや小郡町おごおりにつづいており、山陰いんと山陽やうをむすぶたいせつな道路どうろで、バスや自動車じどうしゃがたくさん通っています。また、この地区には、ライスセンターもあります。

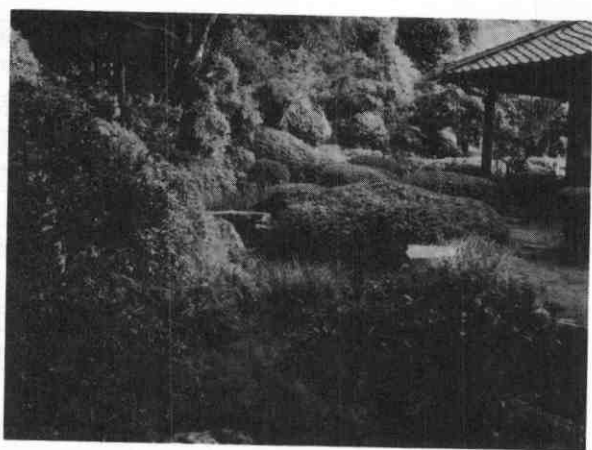
**佐古** 山田地区につづいて、明木川のそばの小高いところには、新しく、佐古団地だんちがつくられました。また、瓜作うりつくりは、となりの旭村の明木と接せつしています。

#### (四) 立野地区

**白上** ここには、川上で一番広い原があり、明治時代に水田となり、米作りもさかんです。



白上団地



庭の寺岳梅

山手には、白上団地があります。ここは、ダム工事で、水底にしずんだ集落の人びとのために、つくられたものです。色がわらの家がならべてたてられています。河川敷かせんしきには、萩ブロック・深江金属工業ふかえきんごくなどの工場こうじょうがあつて、村

民がはたらいています。

**立野・横坂** 立野川の流れにそつてできた

地区で、田もひらけており、集落をかこむ山には、よく手入れをされた、スギの美林びりんがあり、農林業のうりんぎょうのさかんなところす。むかしは、養蚕ようざんがさかんだったので、地区のところどころで、くわ畑が見うけられます。今は、もとの立野小学校の校舎しやは、山口川上農協の稚蚕ちざん飼育所しいくになつており、春から秋にかけて、稚

蚕の飼育をしています。また、にわとりをたくさんかっている長州農場もありません。

梅岳寺ばいかくじという古いお寺には、雪舟せつしゆうという、えらいお坊さんがつくられたという庭園ていえんと、村の文化財になっている古い釣鐘つりかねがあります。

また、惣そうノ瀬せに生まれた八道やじやひち弥七やひちという人は、家の貧まししい中を、どうかして勉強べんきやうしたいと苦学くがくしながら努力し、りっぱな軍人になりました。立野小学校へ、図書館としよかんや本をたくさん寄付きふされ、今も残っています。

立野小学校は、今はなく、この地区の子どもは、バスで川上小学校に通っています。



八道文庫



笹尾の集落

立野川の上流にある、横坂・惣ノ瀬・中ノ原の田は、ほ場整備せいびがなされ、

農作業がしやすくなりました。惣ノ瀬をすすんで行くと、福栄村へ通じます。

**椿瀬**つばせ

川上村と萩市と接したところにある小さな集落です。ここの山手に、

村の文化財の椿つばきの木があります。樹令じゆれい、やく  
四百年もたっており、目の高さの周囲しゆういが、や  
くニメートルあります。花卉かべんが、一枚一枚散  
る椿としてめずらしく、有名ゆうめいです。

#### (五) 山間の地区

**笹尾・杣木谷** 阿武川歴史民俗資料館の先  
の、急な坂道を登のぼっていくと、惣良台・杣木  
谷・笹尾の集落が、山の間にあります。笹尾  
地区には、川上小学校の分校ぶんこうがありました。

今は、この地区の子どもは、村のスクールバスで、川上小学校に通っています。

ここは、林業や農業がおもなしごとです。田は、田だなが多くて、米作りにも、いろいろと、くろうが多いので、これを改良するため、田の整備せいびをしました。村の特産とくさんである、しいたけをさいばいしています。旧分校のそばには、川を利用してつくった、プールがあります。

柚木谷は、昔、奈良の東大寺とうだいじが再建さいけんされるとき、お坊さんが、柚板すまいた取りに入ってきたところだといわれています。

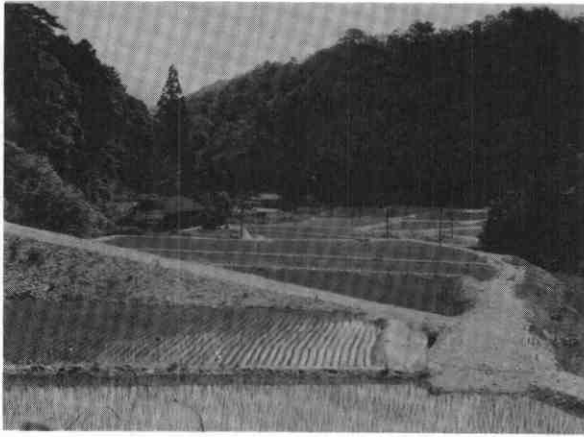
惣良台の近くには、「武井谷たけいだに・緑の村」がつ



武井谷・緑の村



くられており、果樹園かじゅえんや運動広場ひろば・キャンプの施設しせつもあり、たくさんの人に利用されています。



野戸呂盆地

江舟・野戸呂 ここには、江舟川と野戸呂川が流れており、野戸呂は、山の中の盆地ぼんちとなつています。たな田の多いところでしたが、今は、構造改善事業こうぞうで、田も整備され、つくりやすくなりました。

ここは、筏場から、二十キロメートル以上もはなれており、通学用スクールバスを、一般ばんの人も利用するようになりました。江舟地区は、昭和四十一年の集中豪雨ごううで、田・畑や家・道路に大きな被害ひがいをうけましたが、その後、りっぱに復旧ふっきゅうしています。

野戸呂には、野戸呂小（中）学校がありました。今は、この地区の子どもは、村のスクールバスで、川上小（中）学校に通っています。もとの校舎は、障害者活動センター「川上すぎのこ村」の名で、キャンプ場として、山口県内の多くの人々が利用しています。

この近くにある長門峡は、峡谷の美しいところとして有名で、たくさんの方が観光にきます。その昔、長門峡の美しさが、まだ知られていないころ、画家であり、地質学者の、高島北海たかしまほつかいという人が、長門峡の紹介と、道路の開発かいはつに、力をそそぎました。大正九年、北海が、長門峡という名前をつけました。

(六) ダムにしずんだ地区



川上すぎのこ村



阿武川ダム

昭和四十五年、阿武川ダムの工事はじめられ、川上村では、高瀬・木津原・藤蔵・大藤・一ノ谷の集落が、水底にしみましました。そのため、百五十世帯・やく六百人の人が、また、福栄村では、六十四世帯・やく二百人の人が、その多くは、萩市や防府市・山口市などにうつりました。そのとき、村でも、白上と佐古に団地をつくって、できるだけ、人びとを村にとどめるようにしました。

(七) よその町や村とのつながり

川上村は、萩市や旭村・阿東町・福栄村と接していますが、これらとは、国道や県道・村道でむすばれています。

国道二六二号線 この道は、萩市から山田

地区を通り、旭村佐々並から山口市にでて、防府市につづいています。山陰<sup>さんいん</sup>と山陽<sup>さんよう</sup>をむすぶたいせつな交通路<sup>こうつうろ</sup>として、防長バス・国鉄バス・山陽急行バスの三つのバス路線があり、一日に七十台以上のバスがいききしています。

この国道は、品物を運ぶ<sup>はこ</sup>道路<sup>どうろ</sup>としても、たいせつなはたらきをしています。トラックで萩市から、甘夏かん類<sup>るい</sup>をはじめ、魚・かまぼこ・いりこなどが、大阪・広島・九州方面に運ばれます。川上からは、木材やゆずなどの農産物が各地に運ばれます。また、大阪・広島・九州・山陽方面から、日用品・食料品<sup>じょうりょう</sup>や工場の原料<sup>げんりょう</sup>・機械<sup>きかい</sup>などが運ばれてきます。

春から秋の間は、大阪・広島・九州方面の



国道262号線（山田付近）



相原付近の県道

都市から、貸切バスや自家用車で、萩市や阿武川ダム・歴史民俗資料館・長門峡の観光にくる人が、たくさん通ります。

## 県道

長門峡北入口から阿武川ダム・長門峡遊歩道を通って、阿東町の長

門峡駅にでる道路(萩・長門峡線)、この道の野戸呂を通り、阿東町篠目にでる道路(迫田・篠目停車場線)、萩市の舟津から、立野を通り、阿武川ダムまでを(萩・川上線)、筏場から遠谷に入って、中笹尾までの道路(笹尾・筏場線)、阿武川ダムから、杣木谷・笹尾を通って、旭村佐々並にでる道路(山口福栄・須佐線)の五本があります。これらの道路は、川上村とまわりの市町村とのたいせつな連絡道となつ

ています。この県道は、萩市や各地  
につとめる人・高等学校に通学する  
人たちにとつても、たいせつな道路  
です。

### 村道

これらの国道や県道と各地  
区をむすぶ村道も、村の計画によつ  
て、りっぱな道がつくられています。  
立野・福川線、長谷尻しり・足山線、舟  
戸・小郷線、岡・笹尾線、筏場・灰  
福線、江舟線、江舟・野戸呂線、笹  
尾・新茶屋線しんちや、山田・京床線きょうどこなどが  
あります。また、川上村は、林業が



村内の道路

さかんなので、木材を運ぶ林道も、いたるところにつけられています。

### (八) 萩市のすがた

萩市は、古くから、お城しろを中心としてさかえた、城下町じょうかまちです。いまでも、

萩城のあとや、明倫館跡めいりんかんあと・松下村塾しょうかそんじゅく・東光寺とうこうじ  
大照院だいしょういんなどの史跡しせきや、笠山かさやま・明神池みょうじんいけなどの名勝めいしょうがたくさんあります。

### 萩市全景

萩市は、山口県の日本海沿岸えんのほぼ中ほどにあり、北浦の中心といわれています。川内、椿東ちんとう・椿・山田・三見さんみ・大井・六島・見島がらなっています。海岸は、いそ浜海岸で、ごつごつした岩が、かさなりあつてるところが、たいへん美しく、北長門海岸ながと国定公園こくていに



はいつています。

広さは、およそ、百三十八平方キロメートルあり、人口は、やく五万三千人です。川内は、阿武川からわかれた、松本川と橋本川にはさまれた、三角州（デルタ）の上にてきた町です。

萩市には、萩簡易裁判所や、県庁の多くの

出先の役所が入っている山口県萩総合庁舎・

萩保健所・萩警察署・萩市役所・萩市消防署

などの国や県・市の役所がたくさんあります。

学校も、萩高等学校のほか、萩商業高等学

校・萩工業高等学校など、三つの県立高等学

校と、萩光塩学院や萩女子短期大学などの学

校があつて、川上村からも、多くの生徒や学



山口県萩総合庁舎



生が通っています。

川内には、東田町や吉田町を中心とした商店街や、まわりの田がうめられて、新しい商店街が、つきつきとできています。



いちごのハウス栽培

萩市は、甘夏かんや、やさしい作りの農業もさかんで、やさいやいちごのハウス栽培もおこなわれています。また、最近では、甘夏かんのほかに、ハツサクや伊予かんなども植えられています。

また、日本海に面していますから、漁業もさかんで、イワシ・アジ・などの魚が、たくさん、魚市場にあげられます。そのほか、ウニ・サザエ・アワビ・ワカメなどもとれます。

とつた魚を、かまぼこ・ちくわ・ほし魚などにする加工場もあります。

萩市には、毛利藩時代から、やき物がさかんにつくられ、湯のみ茶わん・花びんなどのすぐれたものがあつて、萩焼として有名です。

交通は、鉄道の山陰本線が通っているほか、

国道二六二号線と一九一号線があります。

また、まわりの町村とむすぶ県道もあつて、

春から秋の間は、史跡や名勝をみにくる観光客でにぎわっています。

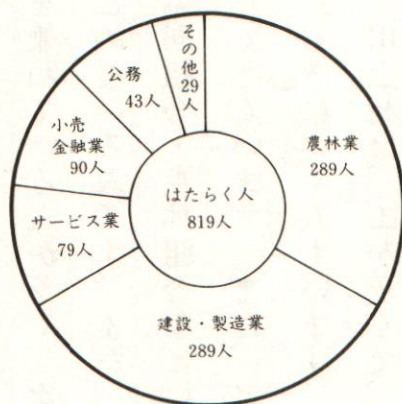
しかし、萩市には、大きな工場もなく、産業もさかんでないので、最近では、まわりの町や村といっしょになって、北浦ふるさとまつりなどの行事をしたり、広くこの地方を活発



東 萩 駅

にするために、共同で努力どりょくしています。

## 二、川上村の人びとのしごと



(昭和55年 国勢調査)

川上村の人びとは、どのようなしごとをしているか、自分の集落をしらべて、もちよつてみましょう。

### (一) 川上村の人びとのしごとしらべ

川上村には、およそ、千四百人の人が住すんでいます。どのようなしごとをしている人が多いか、村でしらべたものを、グラフにかきました。いちばん多いのは、農林業のしごと

をしている人です。しかし、この人たちは、農業・林業と土木工事のしごとを兼ねている人が多く、次は、土木工事のしごとやそれに関係する会社にとめてしている人です。また、アルミ工場ではたらいっている人や、村役場・農業協同組合・森林組合などにとめてしている人もたくさんいます。また、となりの萩市には、たらしにいく人もいます。

川上村は、山が多くて、山のしごとをする人が多いように思いますが、山のしごとは、木を植えたあとの十五年ぐらいの間で、木が大きくなると、人手がいらなくなるし、間伐かんぼつしても、値ねだんがよくないので、山をもって、いる人の多くは、林業以外のしごとをする日



深江金属工業

数が多くなります。

村の人びとのしごとを、もつとくわしく、しらべてみましょう。

## (二) 田や畑のしごとと畜産



山田原の田

川上村の農業は、どんな作物を、どのよう  
にしてつくり、どこに送りだしているの  
でしょう。

### 米作り

田の植付面積は、やく九十二ヘク

タールで、米のとれ高は、やく三百八十トン  
です。田がまとまっておりますところは、阿武川  
にそつた地区で、立野(白上原)・山田(山田  
原)・三徳(相原)がおもなもので、野戸呂・  
江舟・笹尾などがこれにつづいています。

米作りは、むかしは、牛や馬をつかって、田をたがやしていました。苗も  
手で植え、いねもかまでかり、もみをおとすことも「せんば」や「あしふみ  
だっこく機」をつかっていました。今は、ほとんどの農家が、耕運機やトラ  
クターで田をたがやし、育苗センターでつく  
った苗を、田植機で植えています。また、い  
ねかりから、もみすりまで、すべて機械でし  
ています。このように、米作りのしごとを、  
機械でするようになってきたのは、機械の発  
達もありますが、農家の人口がへり、若い  
たらき手が少なくなってきたことも、えいき  
ようしています。

農家では、良い米をつくるために、いねに



育苗センター

年 度	農家戸数	農業人口
昭和55年	289戸	1,143人
昭和60年	287戸	1,088人

川上村の農家戸数と農業人口（農業センサス）

年 度	田	畑	樹園地
昭和55年	139ha(120)	30ha	18ha
昭和60年	136ha(92)	28ha	22ha

川上村のこう地面積 ※( )は植栽面積

つく病<sup>びょう</sup>気<sup>き</sup>や害<sup>がい</sup>虫<sup>ちゅう</sup>を防ぐこと、よりよい品<sup>ひん</sup>種<sup>しゅ</sup>の改<sup>か</sup>良<sup>りょう</sup>など、いろい<sup>ろ</sup>ろな苦<sup>く</sup>心<sup>しん</sup>をつづけています。

また、山田地区では、新<sup>こう</sup>農<sup>そう</sup>業<sup>がい</sup>構<sup>けん</sup>造<sup>じょう</sup>改<sup>かい</sup>善<sup>ぜん</sup>事<sup>じ</sup>業<sup>ぎょう</sup>といつて、田<sup>かん</sup>の管<sup>り</sup>理<sup>り</sup>がしやうい

ように、田の整備をしました。ここでは、米・大豆・麦<sup>むぎ</sup>を年ごとに交代で植えています。

また、ここには、ライスセンターがあり、米の計量・かんそう・もみすり・袋<sup>ふくろ</sup>入れなどをしています。みなさんも、もつと米作りのしごとについて、しらべてみましょう。

**やさい作り** 川上村には、広い畑がありません。村の畑の面積は、やく二十八ヘクタールで、多くの家では、自分のところにつかう、



やさしいを作っているぐらいです。萩市の霧口きりぐちや沖原おきばらにみられるような、ビニールハウスをつかって作る、大がかりなやさしい作りは、みられません。

村では、どんなやさしいが作られているか、また、たくさん作られる農家で、どのようにして売られるか、しらべてみましょう。

**ユズ** とわたに 遠谷の金山かなやまは、ユズの自生地じせいちとして国の天然記念物てんねんに指定されています。村の気候こうが、ユズのさいばいさいばいにあっているので、昭和三十八年から、苗木いくせいの育成をはじめ、村の特産品とくさんとして、送りだすように力をいれてきました。

ユズは、みかんのなかまで、果実かじつのまま、



ユズの畑



ダンボール箱ばこに入れて、広島方面に送るほか、工場で加工して、ユズミそやマーマレードを作っています。また、果実の中のしるは、しばって、「ユズのす」として売られています。



ユズの加工品

**そのほかの産物**さんぶつ 山のふもとや畑はたけを利用して、クリ・ウメのさいばいもしています。

また、山には、ナンテンが多くはえており、植木や切り花用として、萩市や九州に出荷されています。

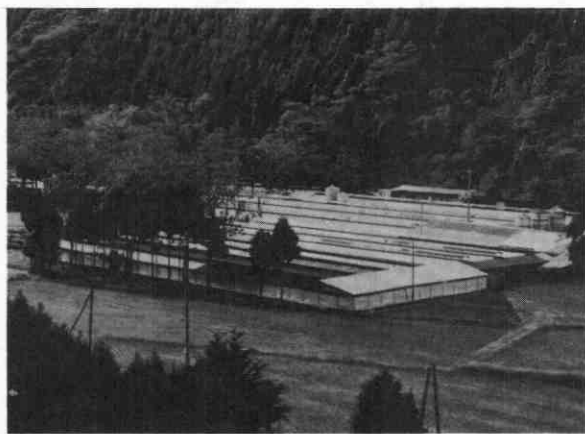
**畜産** 昔は、田畑をたがやすのに、牛や馬をつかっていましたが、今は、農業が機械化かされたので、牛や馬をかう人が、少なくなりました。ほかの町村では、牛乳にゅうや牛肉をとる

ために、たくさんの牛うしをかつている農家があります。

村には、立野に、大きな養鶏場ようけいがあつて、たくさんのにわとりをかつています。

ぶたは、やく六百三十頭とう、牛うしは、やく六十頭ですが、土つくりとして、かう面もありま  
す。

昔は、農家で、かいこをかつて、マユを多く  
くだしていました。村の産業として県下でも  
指折りでした。しかし、戦争せんそう中に、食料じきょうぞう  
さんが強つよくいわれて、くわ畑が、田ややさい  
畑にかかりました。今では、もとの立野小学  
校のたて物をつかつて、稚蚕ちさんを飼育しいくして、農



立野の養鶏場



稚蚕飼育所

家にくばり、農協のしどうにより、りっぱなマユをしゅうかくしています。しかし、マユの生産は、昭和四十年ごろとくらべて、やく半分はんぶんにおちています。

### 山口川上農業協同組合 農業をする人たち

は、力を合わせて、うまくしごとができるように、農業協同組合くみあいをつくっています。

組合では、農家の人たちが作った産物を集めて、できるだけ高く売ったり、農業機械や肥料ひりょう・農薬やぐなど、農家がつかう品物を、山口県農業協同組合連合会れんごうかいから、できるだけ安く仕入れて、農家の人に売ったり、農家が機械などを買うのに必要ひつようなお金を、かしたりして

います。また、組合員の人びとのお金をあずかるしごともしています。

また、せいめいきよささい生命共済・しやうゆこうじやう醤油工場・うんせう運送・ライスセンターなどのしごともしており、農家の人  
が助けあつて、生活をよくするために努力し  
ています。

また、よい産物さんぶつや加工食品を作るには、ど  
うしたらよいかなど、いろいろ研究けんかうもしてい  
ます。

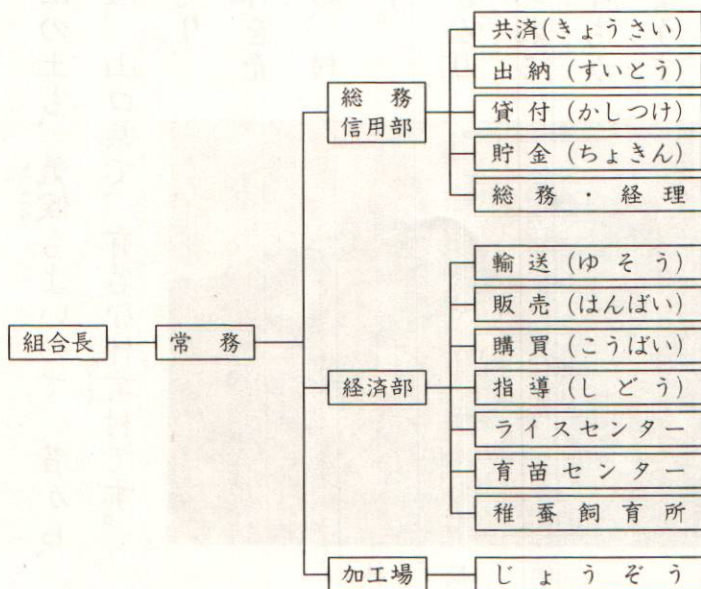


山口川上農業協同組合

### 川上村の農産物などの生産量

品目	昭和40年		昭和50年		昭和60年	
	面積	数量	面積	数量	面積	数量
米	150ha	210 t	120ha	510 t	92ha	380 t
麦					6.6ha	19 t
まゆ <small>(くわ)</small>	10ha	6,500kg	10ha	5,000kg	6ha	1,640kg
木炭		84,000俵		19,900俵		2,200俵
うめ	3ha	3,000kg	3ha	5,000kg	5ha	12,000kg
くり	10ha	3,000kg	10ha	5,000kg	9ha	4,000kg
ゆず			5ha	50,000個	15ha	50 t
玉ねぎ					2ha	60 t
しいたけ		19,800kg		8,650kg		1,200kg
ぶた		1,800頭		800頭		630頭
牛		110頭		75頭		55頭

### 農業協同組合のしごとのしくみ



### (三) 山のしごと

川上村は、大部分が山林であつて、山の土も、きこう気候もよいので、昔から、スギ・ヒノキを植えていました。今では、山口県で、有名な林業村りんぎやうです。

学校をたてたり、道路や橋はしをつくったり、

しゅうりしたりすることなど、村の山林を売ったお金が、つかわれました。そのため、村の人びとも、山をたいせつにしています。

山の木を育てるには、そだながい年月がかかります。植林しよりんした木は、ようざい用材としてつかわれます。ようになるには、やく三十年から四十年もかかります。みなさんも、山のしごこのようすをしらべてみましょう。



学 校 林



植林 苗木なえぎを植えるときは、秋から春にかけて、山はだをきれいに、地ごしらえをします。三月になると、二年生から三年生の苗木を、一本一本ていねいに植えます。

下 が り

下したがり 植林がすむと、その年から、やく十年間は、山にはえる草やぞう木をかります。このしごとを下したがりといって、夏の暑あついときにします。下したがりをする、苗木が、ほかの木やかずらによつていためられないで、よく育ちます。

枝えだうち 十年以上たつと、木も大きく育つて、下枝したえだがしげります。そこで、木の成長せいちようをよくして、良い木を育てるために、下枝を切

り落おとします。このしごを枝うちといいます。枝うちをすると、風通かぜとおしがよ  
くなくて、日光もよくあたるので、木がよく育ちます。

切りだし 山林は、三十年以上たつと、りっぱな材木として切りだされま  
す。昔むかしは、「おの」と「手びきのこ」で、しごと  
をしていましたが、今は、「チェーンソー」とい  
う動力のこをつかっています。

切られた木は、かせんや木馬きんまをつかって、  
道路みちまで運び、トラックで、県森連共販所しんれんきょうはんや  
木材市場もくざいに運ばれ、「せり」にかけます。

雪ゆきのがいをふせぐ 川上村は、十二月から  
二月にかけて、大雪ゆきがふることがあります。  
そのため、木に雪がつもって、おれることが



材木の運ばん





植 林 風 景

あります。これをできるだけ少なくするために、雪おとしをしたり、植林の方法ほうほうや間引きまびきなど、いろいろとくふうしています。

### 林業のれきし

林業が今のようになつて、良い材木をだすようになつたのは、昔の人びとが、努力して木を育ててきたおかげです。筏場の阿武卯吉あんのうきちという人が、スギやヒノキを植林したもので、このときのスギからさし木用のほ木をとつて、「阿武一号」といって、県のさいほ場で、苗を作りました。

この家の人なが、それをうけついで、造林につくしました。これを習ならつて、植林のしごとが、村全体の人びとに広まりました。

## 川上村森林組合

山を所有している人たちが、力を合わせて、うまくしごとをしていくために、川上村森林組合しんりんをつくっています。ここでは、組合員のために、いろいろなしごとをしています。なかでも、大きなしごとは、山林を所有していても、山のしごとをする人が、少なくなったので、植林や下がり・枝うち・切りだし、などをうけおってやっています。

## シイタケさいばい

川上村には、シイタケ

さいばいの原木げんぼくとなる、ナラ木が多くあります。また、山林の中は、ちよくしや日光が、

あたらなないので、ほどよいしめりけがあるため、シイタケづくりにあっています。農家の人は、十一月から十二月に、ナラ木を切りた



川上村森林組合

おし、三月になって、てきとうな長さに切ります。それから、うちこみ機きをつかって、シイタケのきんをうえつけます。二・三年たつと、原木にシイタケが、つぎつぎとはえてきます。



シイタケのほた場

シイタケは、なまのまま、パックに入れて、のうきょう農協にだし、しゅつか農協から宇部・広島方面に共同出荷をしています。

また、かんそうき  
せて、ダンボール箱げ  
につめ、東京・大阪  
・名古屋の市場に送  
りだして、共同販売はんばい  
をしています。



シイタケ

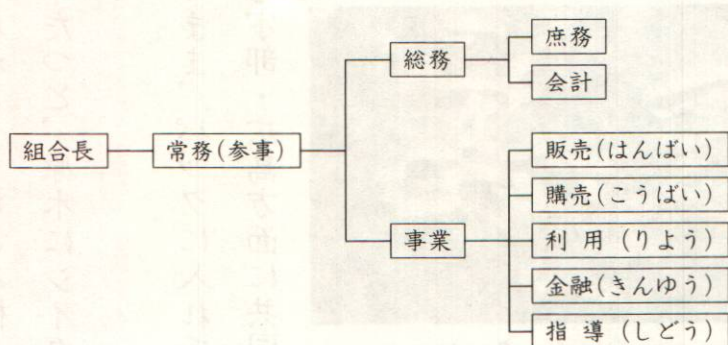
### 森林組合のしごと

事業種別		昭和43年	昭和48年	昭和60年
林産	受託(じゅたく)	663m <sup>3</sup>	2,573m <sup>3</sup>	5,837m <sup>3</sup>
	買い取り(かいとり)	0	0	0
販売	受託	14m <sup>3</sup>	70m <sup>3</sup>	715m <sup>3</sup>
	買い取り	0	225m <sup>3</sup>	0
受託造林		20ha	17ha	58ha
受託保育		170ha	124ha	379ha

### 川上村林業の生産高

区分	昭和43年	昭和49年	昭和60年
材木	9,500m <sup>3</sup>	7,170m <sup>3</sup>	8,100m <sup>3</sup>

### 森林組合のしごとのしくみ





道路工事風景

(四) いろいろなしごと

道路工事で、はたらく人 村内では、大きなトラックやダンプカー・ショベルカーなどをよく見かけます。これらの車は、道路や川岸の工事のざいり

ようを運んだりしています。村の道は、川や山のほとりを通っているのが多いため、道はばをひろげたり、川のていぼうを強くする工事が、おこなわれています。村には、このよ<sup>けんせつぎょうしゃ</sup>うな建設業者がおり、そこではたらいっている人もたくさんいます。

工場で、はたらく人 川上村には、生コンクリート工場やブロック工場・製材所<sup>せいざい</sup>などがあります。また、立野地区に、深江金属工業<sup>きんぞくこうぎょう</sup>

というアルミを加工する工場があります。アルミ工場は、村にやってきた、最初さいしょの大きな工場です。日本で新しく開発かいはつした、最高ぎじゆつの技術をつかって、アルミニウム板をうすくのはし、日用品の食器しょっきや、電気製品の部品などのものになる製品せいひんを作っています。

生コンクリート工場やブロック工場では、近くの山から切りだした碎石さいせきや、川の砂すなをつかって、生コンクリートや、いろいろな形のブロックが作られています。作られたものは、村内や近くの市町村の、道路や川・海などの工事をするところや、家をたてる>ところとこに、運はばれています。

製材所せいざいでは、山から運はばれてきた材木ざいもくを、



生コンクリート工場



製材所

きまつた長さに切ったり、わいたりします。できあがった板材や角材は、たて物や道具などを作るところに運ばれます。工場では、大きな電動のこが、高い音をたてて動いています。

これらの工場では、村の人びとが、たくさんはたらいています。製品がつくられるまでのようすをしらべてみましょう。また、もつと大きな工場のこと、しらべてみたいものです。

川魚をとる人 阿武川は、県内で二番目に

長い川です。岩国の錦川・防府の佐波川などとならんで、アユつりでにぎわうところ、アユやハヤつりに、県内や遠く九州から、た



くさんの人が、自動車ですべてやってきます。秋には、川原で、とったアユを料理りょうりして、楽しくすごしている風景が、よく見られます。阿武川ダムができてからは、ダムの放水により、水の流れが、たびたびかわるので、アユつりのよい場所が、少なくなりました。これからの川魚は、稚魚を放流したり、育てることが、たいせつでしょう。

阿武川の下流にある松本川では、春になると、四つ手あみをつかって、シロウオとりが、はじめられます。春がきたことをしらせる行事の一つになっています。

**お店** 村内にある店は、一・二年で勉強したように、よろずやの形をしたお店です。



アユとり (ヤナ)



みかん畑

車に、魚やいろいろな食料品しょくりょうをつんで、売りにやってくる行商ぎやうじやうの人もいます。村の人びとも、萩市の商店に買物かひものに行く人が多いので、商店ではたらく人については、萩市のところではらべましょう。

#### (五) 萩市の人びとのしごと

みかんづくり 萩の夏なつみかんは、今からおよそ、百年前から作られはじめました。今までは、市内のいたるところで、たくさん作られていましたが、消費者しょうひの好みこのなどもあつて、ねだんが安くなり、このごろでは、甘夏かんじやうかん温州うんしやうみかん・はつきく・伊予いよかんなどが、作られています。甘夏かんじやうかんのとれ高は、およそ二千トン・夏みかんは、およそ千七百トン。

はつきくは、およそ三百三十トン・温州みかんは、およそ三百トンです。肥料や農薬のうやくのねだんも高く、アメリカからのグレープフルーツなどの輸入問題だなどもあつて、生産者も大きな問題をかかえています。

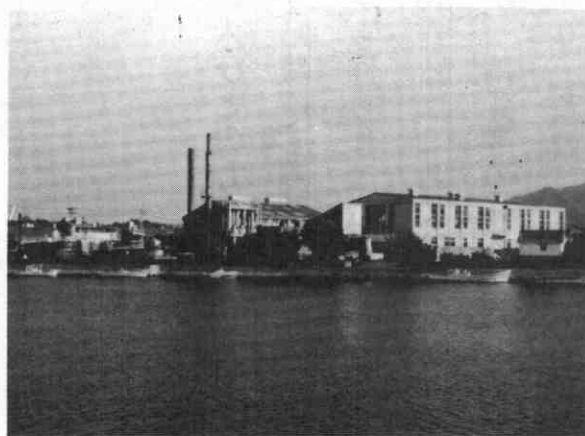
### 萩の加工場 松本川のすぐそばにある「山

口県経済農業協同組合連合会萩加工場」は、市内の大きな工場の一つです。

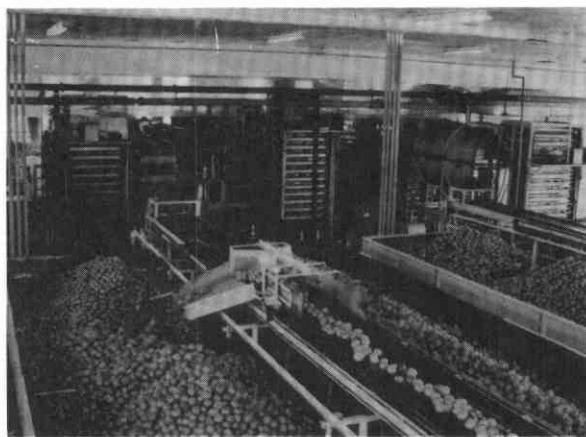
ここでは、夏みかんや温州みかんから、ジュースやマーマレードをつくっています。

そのほかに、たけのこ・くりなどを、かんずめにしたりしています。

加工場にくるみかんは、市内や近くの町村ばかりでなく、遠く県内の大島郡や、四国・



萩加工場



加工場の中

九州の各県から、トラックで運ばれてきます。つくられたジュースは、かんやびんにつめられて、飲料会社におくりだされています。

工場の中には、皮むき・実をしぼるなどの機械があつて、たくさんの人が、

手ぎわよく、はたらいています。

**魚をとる** 川上村の人が食べる魚は、萩市

や、まわりの町のりょうしが、とつたものが多いです。みなさんが食べる魚は、どのようにして、とられているのでしょうか。

萩市には、越前・玉江・大井・三見などの港があり、大小の漁船が、遠くは、東支那海や日本海のおきにて、タイ・フグ・イカ・アジなどをとります。

船には、船長やりようしが乗<sup>の</sup>り、無線電話<sup>むせんでんわ</sup>をつかつて、なかまの船や港と、れんらくをとりながら、魚をおいます。ほとんどが、大きな長いあみを、機械で、まきあげてとつています。とつた魚は、下関<sup>しもせき</sup>・長崎<sup>ながさき</sup>・福岡<sup>ふくおか</sup>などの魚市場にあげられます。

川上にくる魚は、おもに近くの海でとられたものです。それは、小型<sup>こがた</sup>の漁船をつかつて、あみや一本づりなどの方法でとつたものです。イカ・アジ・イワシ・イサキなどが多いようです。これらの船には、一人から四人の人が乗りこんで、夕方からでて、つぎの朝、萩の港<sup>みなと</sup>にある魚市場に魚をあげます。それを、魚屋さんが買って、村に売りにきます。萩の近



萩の漁港



かまぼこ工場

くの海では、魚のほかにも、貝や海そうもとれます。

工場のしごと 萩には、萩加工場のほか、新川や浜崎の製材所・浜崎を中心とした、かまぼこ工場や、魚・海そうの加工場など中小工場が、たくさん

あります。これらの工場では、萩市や近くの町村の人が、たくさんはたらいっています。

とくに、食品をつくる工場では、いつも、えいせいに気をつけて、きれいにするようにしています。

萩市への遠足えんそくのときに、市内の工場に行つて、ようすをしらべてみましょう。

商店 川内の中心には、東田町や吉田町などの商店街ががあります。洋品店・本屋・おも



ちや屋・くつ屋・かし屋などの専門店せんもんがあります。最近さいきんは、これらの商店街のほかにも、新しい商店街や、大きなショッピングセンターができており、自分にあつた好きなものを買うかことができます。

店ではたらく人は、市内や近くの町村の人が多く、お客きやくさんを相手あいてにするしごとだから、ふくそうなどきちんとして、ことばづかいてもいいにし、親切しんせつにするようつとめています。

また、これらの店は、いっしょになつて、組合をつくつています。組合では、大売り出しや、町のかざりつけ、しごとを休む日などを、そうだんしてきめています。



ショッピングセンター



青果市場

そのほか、商店や工場のしごとが、うまくいくように、商工会議所かいぎがあつて、せわをしています。

川上村にも、商工会があつて、商店や工場の経営けいえいについてのせわをしています。

**問屋とんやと市場** 萩市には、大きな問屋がない

ため、専門店などでは、大阪・岐阜ぎふ・名古屋なごや・広島・福岡などの問屋から品物を仕入れします。

店で、もつとも多いのは、食料品店や、やお屋・魚屋で、それらの店では、朝早くから、青果市場せいかにかや魚市場に行つて、品物を仕入れします。青果市場は、萩の消防署しょうぼうしょのそばにあります。

す。朝、早くから「せり」がはじまるため、市内や近くの町村の農家ではやさいやくだものなどを、朝早くもつていきます。

夏なつには、萩のおきにある島で作られた、すいかもたくさんだされます。

近ごろは、ビニールハウスをつかって、一年中、休みなく、いろいろなくだものや、やさしいが出荷されています。また、遠くの市町村からも、さつまいも・ばれいしょ・にんじんなどが、送られてきます。

魚市場おむの主なものは、中小畑なかおぼたにあります。

この市場には、市内の漁船がとってきた魚が、水あげされています。ここでも「せり」にかげられた魚は、市内の魚屋さんいしやに運びこまれ



魚 市 場



高等学校

たり、工場で、かまぼこなどに作られたりします。また、一部の魚は、下関に送られ、遠く京都・大阪などに出荷しゅつかされます。川上村に売りにくる人も、魚市場で買ってもつてきます。

その他のたのしごと 萩市には、県の総合庁舎そうごうちょうしや

や萩市役所をはじめ、多くの役所や学校・駅えきなどがあります。これらではたらく人もたくさんいます。

また、高等学校こうがっこうには、まわりの町村から、列車れっしゃやバスで通っている学生もたくさんいます。

萩焼の窯元かまもともたくさんあり工場で働く人もたくさんいます。

### 三、けんこうで安全な生活

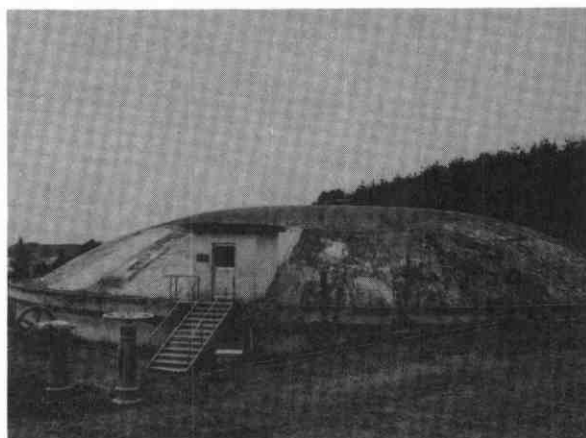
みなさんは、けんこうで安全な生活あんぜんをするために、いろいろなことに注意ちゅういしてやっています。川上村でも、村の人たちの、けんこうと安全まもを守るために、多くのしごとやせつびをしています。どんなことをしているか、みなさんも、しらべてみましょう。

#### (一) 村民のつかう水

村では、水に恵めぐまれていたので、多くの家が、きれいな山の水や井戸いど水をつかっていました。しかし、昭和四十五年に、白上団地だんちに

水道名	できた年	給水区域
白上水道	昭和45年3月	白上
佐古	〃 47年3月	佐古
岡	〃 48年5月	岡
木ノ瀬	〃	木ノ瀬
舟戸	〃	舟戸・熊谷
灰福	〃 49年4月	灰福
筏場	〃	筏場

村内共同給水施設の表



萩の配水池

阿武川の水を利用して、「集落共同給水施設」がつくられ、昭和四十九年までに、七地域につきました。それ以外の地区でも、ボーリングして、ポンプでくみあげた水をつかうようになりました。

共同給水施設は、地下水を貯水場にくみあげて、ここから、地下の水道かんで、それぞれの家まで送ります。

水は、毎日つかうたいせつなものですから、きれいにし、病気にかからないようにしなければなりません。そこで、村では、水を消毒したり、また、毎年、検査をします。

となりの萩市では、上水道といって、大きな配水池に、阿武川の水をくみあげ、大じか



けなせつびで、水をきれいにしして、家々に送っています。

## (二) ゴミのしより

わたしたちの家からは、毎日、やさいの切りはしや紙くずなど、たくさんのゴミがでます。それを、そのままにしておくと、くさって、いやなおいがしたり、ハエやゴキブリ・ネズミなどがふえて、でんせん病のもとになります。村の家では、近くの畑にうめたり、やいたりしていましたが、ゴミの量りょうがしだいに多くなってきました。また、やけないゴミもふえてきました。これらのゴミを、なんとかして、しまつし、家や村をきれいにしたいとかがええました。



ゴミしより場 (福井)



村のしんりよう所

そこで、村では、萩市や旭村・むつみ村・福栄村・阿武町などと相談して、大きなゴミやき場をつくりました。村では、毎週、曜日をきめて、各地区をまわって、ゴミを集めて<sup>あつ</sup>います。もえないゴミも、一年に何回か日をきめて

集めてしよりしています。

### (三) けんこうを守るしくみ

村には、しんりよう所が、役場のそばにあります。村の人びとは、このしんりよう所や、萩市の病院で、病気のちりようをします。

おいしゃさんが、病人をしんきつして、伝<sup>でん</sup>染病<sup>せんびょう</sup>とわかったときは、すぐに役場や萩保健<sup>ほけん</sup>所に<sup>しよ</sup>しらせます。ほかの人にうつらないように、病人を伝染病院<sup>いん</sup>にうつし、また、その家

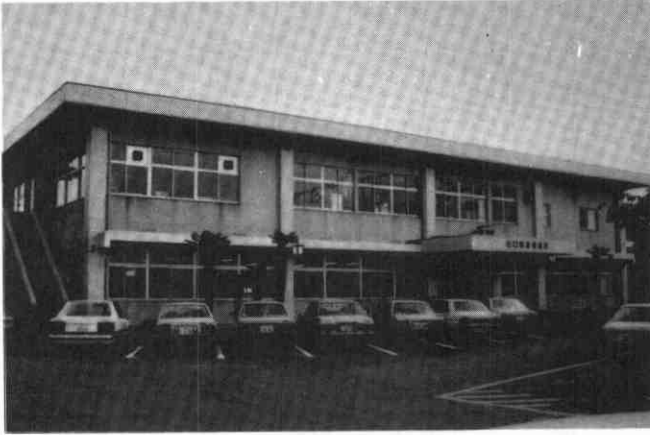
や近所を消毒しょうどくします。このように、人びとは、力を合わせて、伝染病がひろがるのをふせぎます。また、悪い病わる気がはやるときは、予防注射よぼうちゅうしゃをしりょう所じょでします。近ごろは医学いがくがすすんで、昔、多かつた病気は少なくなりましたが、がんやしんぞう病が多くなつてきました。村では、毎年、レントゲン車や、がんけんしん車などで、村民のけんさをするようになっています。みなさんも、今までに、インフルエンザや日本のう炎えんの予防注射をうけていますね。このように、病気にかからないように、また、病気を早くみつけるために、いろいろと、力ちからをつくしています。

夏なつになると、水泳すいえいがはじまる前に、プール



けんしん風景

の水の中に、ばいきんがないか、よごれはないかなど、いろいろと検査をしています。



#### 萩保健所

このため、みなさんは、安心して生活ができて、たのしい水泳ができるのです。

**萩保健所** 病気は食べ物からおこることが

多いので、食品せいせい係の人をおいて、市や町村にある、食堂や食料品店・学校の給食室などをしらべています。そして、食料品は安全か、室内や入れ物は、いつもせいけつにしてあるかなど、いろいろとしどうをしています。また、赤ちゃんの育てかたや、お母さんのけんこうについて、相談をうけたり、か

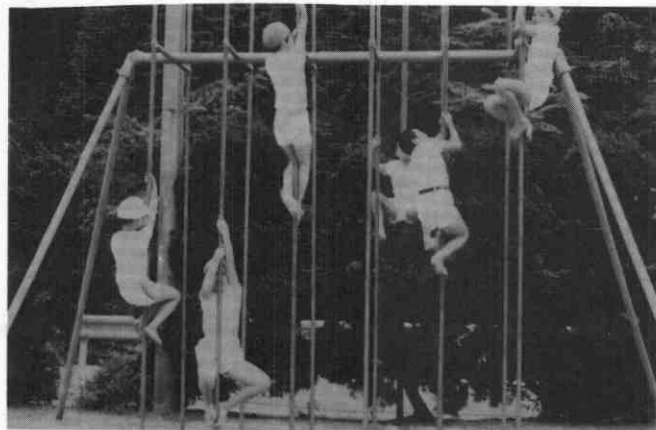
らだのけんきをしたりします。保健所にいる保健婦は、市町村の保健婦のし  
どうをしています。また、村の保健婦は、家をまわって、病気の予防をす  
めたり、けんこうを守るしごとをしています。

病院で大きな手術しゅじゅつをするとき、たくさんの  
血ちがあることがあります。そのときのために、  
けんけつのせわもしています。

かい主ぬしのいない犬いぬをとつたり、かい犬の予  
防注射ちゆうしやをするのも保健所のしごとです。

みなさんも、けんこうを守るために、自分  
たちでできることを、考かんがえてやってみましょ  
う。

#### (四) 火事をふせぐ



体カづくり

分 団	機 械	配 置
本 分 団	消防自動車	長谷・三徳 共栄・遠谷
第1分団	小型動力ポンプ つきせきさい車	立野・白上 椿瀬・横坂
第2 "	"	佐古・山田
第3 "	"	笹尾・杣木谷
第4 "	"	野戸呂・江舟
役場 "		

消防団 村には、五つの消防分団しょうぼうぶんだんがあります。消防団の人たちは、ふだんは、自分の家や会社で、しごとをしています。火事かじのサイレンをきくと、しごとをやめて、消防自動車で、すぐに火事の現場げんばにかけつけ、消火しょうかにあたります。また、日をきめて、火事を消す訓練くんれんをしたり、自動車やホースの手入れをします。火事かじがおきないようにするために、消防団は、地区の家々や学校・工場などをまわって、火事かじのおこりそうなどころはないか、火事かじがおきたときに、にげるところはあるか、消火器きはそなえつけてあるかなど、検査して、しどしています。

村には、川がたくさんありますが、水のふ

べんなどころや、家の多いところには、消火栓せんや貯水ちよそうがつくられていま  
す。

**消防署** 萩市には、消防署があつて、およそ三十人の人が、こうたいで、  
ひるも夜よるもつとめています。日ごろは、いろ  
いろな訓練くんれんをしています。

ここには、消防自動車や、はしご車・けが  
人や急病人きゅうびんをはこぶ救急車きゅうきゅうがあります。早く  
しごとをしなければいけないので、これらの  
車が通るときは、サイレンをならして走りはしま  
す。そのときは、ほかの車は、じゃまをしな  
いように、道のはしなどに、よけることにな  
っています。



萩消防署





水害のあと

町や村のきょう力りよく 川上村では、となりあっている萩市や旭村・福栄村・阿武町などと相談そうだんして、大火事や山火事のはきは、たがいに、おうえんするためのとりきめができています。

(五) 大水をふせぐ

水害がひの多かつた川上村 村の中を流れている阿武川は、おくが深くふか、多くの支流があるので、昔から、大雨のたびに、こう水がでて、家や橋・田畑が流されました。昭和四十一年と四十七年の集中豪雨しゅうちゅうこううのときには、とくに大きな被害ひがいをうけました。四十七年のときには、できあがったばかりの学校プールが流れたり、川上小学校も水につかりました。

大水にそなえる 大水による被害をふせぎ、人びとの生活を守るために、

昔から、人びとは、川のていぼうを強くしたり、川底を深くほってきました。

山口県では、阿武川の災害をふせぐために、村と相談して、昭和五十年に、阿武川ダムをつくりました。このダムは、阿武川ダム管理事務所が世話をして、大雨が降つても、一度に水が流れないようにためておき、時間をきめて、少しずつ流していくようにしています。村の五つの集落が、水の底にしずみましたが、昔のような大水のしんぱいはなくなりました。災害から村民を守るために、役場の人たちは、「どうしたら・災害をふせぐことができる



阿武川ダム管理事務所



水 害 の あ と

か」について話し合っています。大水のどるしんばいのあるときには、役場に「災害対策本部」<sup>たいさいく</sup>がおかれます。本部は、消防団とれんらくをとります。大雨で、あぶないところが見つかり、ま夜中でも、いそいで、そこに集ま

って、地区の人たちときょう力<sup>りき</sup>して、ていぼうのくずれをふせいだり、きけんを人びとに早くしませます。

川上村の災害じょうきょう

内容 年次	災害金額 (円)	こわれたかず				
		ていぼう	道路	橋	家	山・田畑
昭和41.8	1,578,251,000	144	263	26	135	1,024
" 42.7	7,016,000	1	15	1		1
" 43.9	16,200,000	3	25			1
" 44.6	5,992,000	12	15			1
" 45.8	14,262,000	2	22			1
" 46.8	51,339,000	4	20		27	13
" 47.7	1,212,546,000	15	115	2	129	41
" 48	—	—	—	—	—	—
" 49.7	232,753,000	33	31			3
" 50.7	17,560,000	3	15			11
" 51.9	25,850,000		9		1	1
" 52	—	—	—	—	—	—
" 53.9	4,000,000		2			
" 54.6	52,350,000	9	6	1		
" 55.5	143,452,000	8	36		11	34
" 56.6	88,442,000	18	47			50
" 57.7	24,700,000		8			1
" 58.6	26,900,000	9	4			2
" 59	—	—	—	—	—	—
" 60.6	117,825,000	10	26			3

#### 四、すみよい村に

川上村の人びとが、これからも、明るく安心して住めるためには、どのよ

うなしくみがあるか、しらべてみましょう。

##### (一) 村役場と村議会

**村役場** 役場には、村民の生活にひつような、いろいろな係かかりがあつて、多くの人があはたらいています。

税金ぜいきんをつないだり、子どもが生まれうたときや、ひっこしをしたときのとどけをうけたり、予防注射よぼうちゅうしゃや、けんこうしんだんの世話せわをしたり、いろいろなせつびをととのえたりします。



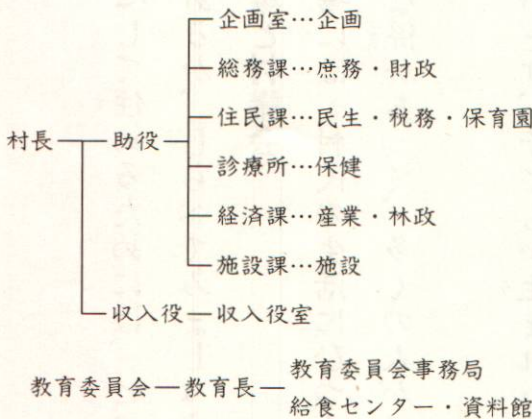
村 役 場

また、道路、橋のかけかえ、学校などのたて物をたてる世話をしたり、火事をふせぐ消防団の世話も、みんな役場のしごとです。村役場には、村民が、生活をするためのいろいろな用事で、毎日やっています。

また、村では、林業・農業をさかんにし、村民の生活をよくするために、いろいろな計画をつくって、実行しています。

**村議会** 村議会では、村民によって、せんきよされた議員が集まって、村民のくらしをよくし、村をはってんさせるために、いろいろな相談をしています。

村議会は、三月・六月・九月・十二月に、きまつて開かれます。三月は、とくに、村の



村役場のしくみ





村 議 会

お金をどのようにつかったらよいかなど、時間をかけて話し合われます。きめられた月以外いがいでも、議会を開くひつようがあるときは、りんじに村議会

を開いて、だいじなことが話し合われます。

役場では、村議会できまったことをもとにして、しごとをすすめます。学校でみなさんがつかっている、いろいろな道具は、村議会できめられたお金で買ったものです。

**しごとにつかう金** 村役場では、いろいろなしごとをするために、たくさんのお金がいります。そのお金は、村に住んでいる人びとがおさめた税金ぜいと、国や県からはいつてくるお金などです。



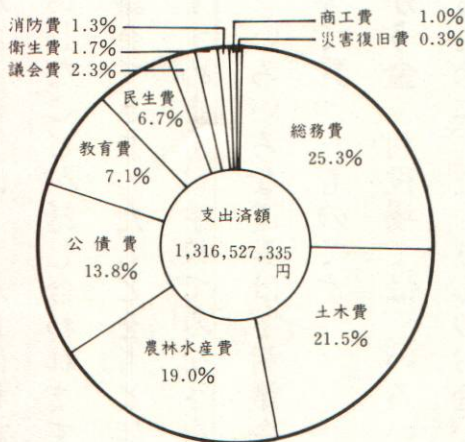
役場の人たちは、お金をむだなくつかうように、また、きめられた予算の中  
 で、役だつようにしています。

## (二) 教育委員会

**教育委員会** わたしたちが、学校で、勉強  
 したり、給食をたべたりしていますが、それ  
 らの世話をするとこゝろです。

また、学校から遠い地区の子どもをスクー  
 ルバスで運んだりします。公民館や体育館・  
 プールの世話もします。

**公民館** 昭和五十四年に、新しい公民館が  
 完成しました。ここでは、生け花・お茶・料理  
 おどり・習字・詩吟などをならつたりします。



昭和59年度一般会計歳出決算額の割合

また、としょ図書室には、たくさんの本があります。大会議室かいぎでは、いろいろな演劇げきや講演こうえんが開かれます。また、結婚式場けっこんにもつかわれています。

## 体育館

昭和五十八年に完成しました。バレーボール・インディアカ・剣道などがおこなわれています。夜も、たくさんの人が利用しています。体育館のとなりには、運動広場うんどうひろばがあり、ゲートボールがたのしまれています。

## 体 育 館

### (三) これからの計画

村では、阿武川ダムができてから、道路どうろをよくしていくことに、力ちからをいれています。

また、人口が少なくなってきたので、これ以上じょう、村民がへらないように考えることも、だ

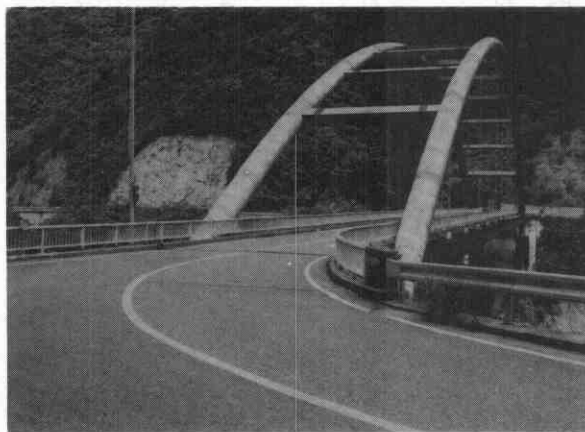


いじなしごとになっています。また、まわりの市町村といっしょになって、施設しせつをつくり、うまくつかうことを計画けいかくしています。

阿武川ダムや長門峡を中心とした観光事業かんこうじぎょうも考えられています。

わたしたちが、たのしく充実じゅうじつした勉強べんきょうや、

生活せいかつができるように、たくさんの計画けいかくがあります。しかし、これをやるためには、多くのお金おかねがいります。そこで、三カ年とか五カ年という長期ちがうきの計画けいかくをたてて、しごとをすすめています。そのため、それぞれの人たちが、村のはってんのために、いっしょうけんめい努力どりょくしています。



大 藤 大 橋

## 五、村のうつりかわり



松下村塾

学校や村のようすが、ぶしの世の中からのようにかわつてきたか、古い人にお話しをきいてしらべてみましょう。

### (一) かわつてきた学校

ぶしの世のおわりごろ ぶしの世の時代じだいには、遠谷・筏場・長谷などの地区に寺小屋てらごやがあつて、村の子どもが、十人から二十五人ぐらい集まつて、勉強していました。

そのころ、萩には毛利藩もうりはんの学校めいりんかん（明倫館）がありました。また、椿東ちんとうには、松下村塾しょうかそんじゅくがあつて、吉田松陰よしたしょういんのもとで、たくさんののでし

があつまり勉強しました。ここで教えをうけた人たちの中には、明治の新しい世の中をつくりだすために、大きな力ちからとなった人びとがいます。

だれもが、学校で勉強できるようになったのは、明治の新しい世の中になつてからです。それまでは、ぶしと一部ぶの人だけにかぎられていました。

明治になつて 明治六年三月に、高瀬たかせに川

上小学校ができました。明治八年六月には、

川上小学野戸呂支校しと川上小学立野支校がつ

くられ、明治十二年に、筏場に川上小学校が

うつされて、高瀬は支校にかかりました。

明治十五年五月には、川上小学校笹尾分教場ささおぶんしょうじょう

がつくられました。その後ご、それぞれ、簡易かんい



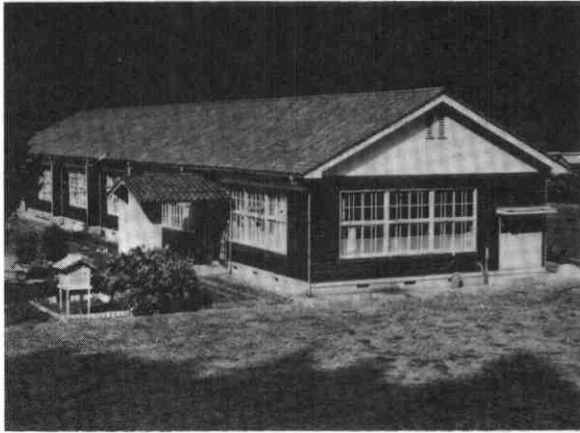
旧 高瀬小学校

小学校・尋常じんじょう小学校・尋常高等こうとう小学校・国民こくみん学校などと、なまえがかわりました。

新しい世の中 昭和二十二年四月より、新しい制度せいどのもとに、小学校六カ

年・中学校三カ年の教育きょういくをだれもがうけることを義務ぎむづけられました。

昭和四十六年の三月に、阿武川ダムの建設けんせつによつて、高瀬小学校は、はい校になりました。立野小学校も、昭和四十六年三月に、笹尾分校は昭和四十八年三月に、野戸呂小学校も昭和五十三年三月に、それぞれ、百年余あまりの歴史れきしをどじ、川上小学校といっしょになりました。



旧 立野小学校

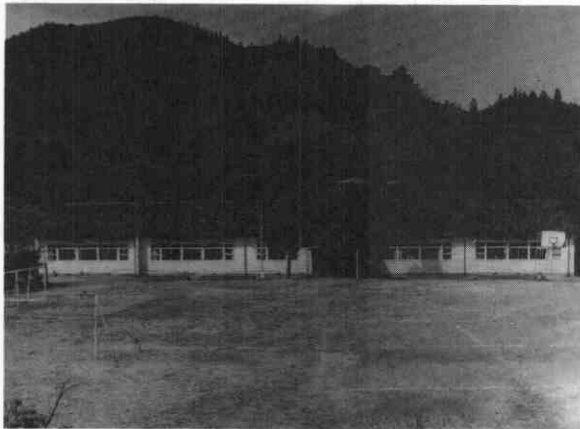
昭和五十三年三月に、野戸呂中学校も川上中学校といっしょになり、小学校も中学校も村で一枚ずつとなりました。

昔は、学校の施設や設備など、とぼしいものでしたが、今は、りっぱな学校で教育をうけることができるようになりました。

## (二) むかしの川上村

村のおいたち 川上村は、ずいぶん昔から、開けていたといわれています。

今からおよそ二百九十年前の記録には、椿村の支郷となっていました。川上村として、どくりつしたのは、およそ二百四十年前のことです。



旧 野戸呂小学校





むかしの家

その後、一八七一年(明治四年)のはい藩置県、一八八九年(明治二十二年)に町村制が施行されましたが、村の大きさとなまえは、そのまま現在までかわりません。そのときの町村制施行によつて、村はそれまでであつた、十八の

行政区をそのままのこして、各区に区長を一名おいて、村役場を相原におきました。そのころの十八区とは、佐古・山田・立野・椿瀬・横坂・足山・長谷・灰福・相原・岡・遠谷・笹尾・長者原・杣木谷・藤蔵・高瀬・江舟・野戸呂の各区です。

村の行政区は、一九一六年(大正五年)十月に、灰福区と相原区をあわせて三徳区とし、また、佐々並川ダムの建設により、長者原区

がなくなりました。また、岡区を共栄区どもえとあらためました。

阿武川ダムの建設により、足山・藤蔵・高瀬の区がなくなり、新しく、白上地区ができ、今の十四地区となりました。

### 農林業のうつりかわり ぶしの世の時代に

は山の杉・ひのきなど大木約二千五百ヘクタールが毛利藩の所有で御立山と呼ばれ直接管理され、また、二千ヘクタールはしば草刈地として自由に処理することが許され、残る四千ヘクタールは、まきや木炭を作る民有の共同山でした。その後、御立山や原野は農民に払い下げられ植林がさかんになり、今の川上林業をきずいたといわれています。



川上村の美林



白上原の田

明治や大正のころは、苗木も山にはえたものを育てて植林していました。今は、たねやさし木で、よい苗をつくっています。

村には、平地が少ないため、農民は、毛利藩が農業に力を入れたとき、山をできるだけ多くたがやし、たな田をつくりました。しかし、大水で流れたり、鳥やけものにも、実をたべられることが多くて、たいへん、くろうしたといわれています。

明治になって、農業のやりかたが、かわつてきたころ、新しい方法をとりいれて、白上原をりっぱな田にしました。

最近では、新しい農業をめざして、ほ場整備がおこなわれ、大型機械をつかつての農作

業わざがしやすくなり、生産量をふやすことができるようになりました。

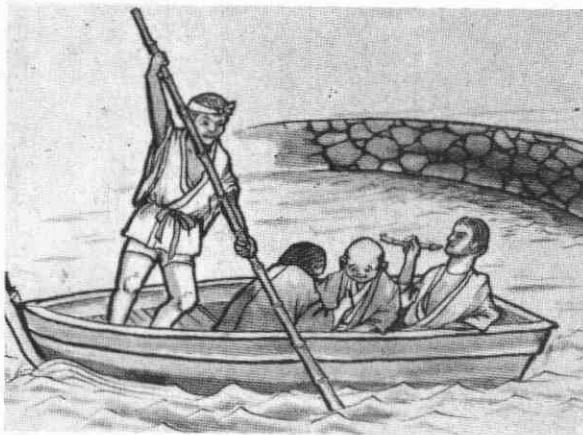
交通のうつりかわり 川上村は、昔の街道かいどうすじでなかつたので、きわめて

はばのせまい山道が、高瀬から足山を通つて長谷へ出たり、足山から中ノ原を通つて、立野から萩へ出たりしていました。

野戸呂・江舟は、矢櫃やびつ・大藤を通つて、高瀬

へ出ていました。しかし、阿武川という大きな川があつたので、これを利用する舟・いかなが、早くから開けていました。

今から、百四十年前の記録きろくに、川舟が百六十二そうあり、そのうち、薪まきと炭すみを萩まで運はこぶ舟が、百二十六そうあつたことが書かれています。



むかしの川舟



いかだ流しの風景

明治も終わりごろ、ようやく、荷車や人力車の通れる道路がつくられました。一九二〇年(大正九年)、萩から山田を通って明木に出る新しい県道ができました。一九二二年(大正十一年)五月に、阿武川下り客舟組合きやくせんがつくられ、

舟で高瀬から萩市の松本まで、観光客かんこうを運びました。また、川舟でいろいろな品物を運んでいました。萩から筏場まで、バスが通るようになってからは、舟にのる人も少なくなり、川舟もなくなりました。

川をへだてた集落をむすぶために、わたし舟も、白馬一ノ瀬・灰福一筏場など六カ所ありました。そのうちで、白上と小郷の間は、一九五六年(昭和三十一年)小郷橋ができる

までつづきました。

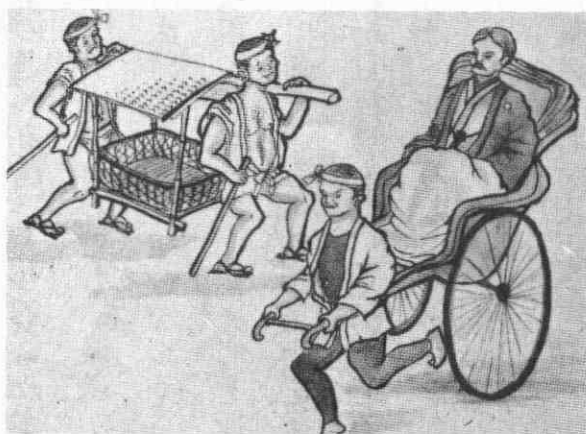
山の木を運ぶ筏流しは、多くの地区の筏場や、「はたば」とよばれる波止場などで、かずらで筏をくみ、一人か二人がのり、萩まで流していきました。

萩で日用品などを買い、帰りは歩きました。

筏流しの中心は高瀬で、大正の終わりごろまでありました。

陸地の乗り物としては、かごと人力車が、

明治時代にありました。川上村では、どちらも、おいしやが自家用としてつかっていました。一八七四年（明治七年）ごろから、日本では、客馬車をはじめ、山口県でもその後萩と小郡の間を、お客を運ぶようになりま



人力車とかご



貸切代替運行バス

した。一九一二年（大正九年）に、防長バスが、六人のりで三時間でいくようになったのでなくなりしました。このころの道は、萩の大屋から明木を通っていたので、村民は、明木までいって、バスに乗っていました。バスが山

田を通るようになったのは、一九二三年（大正十二年）です。

筏場と萩の間に、バスが通るようになったのは、一九二五年（大正十四年）のことで、りゅうぐうがち竜宮渚まで定期バスが通るようになったのは、一九四一年（昭和十六年）のことです。その後、かずかずの歴史をへて、世の中も自家用車の時代となり、バスの利用者が少なくなりました。村もいろいろ対策を考えましたが、



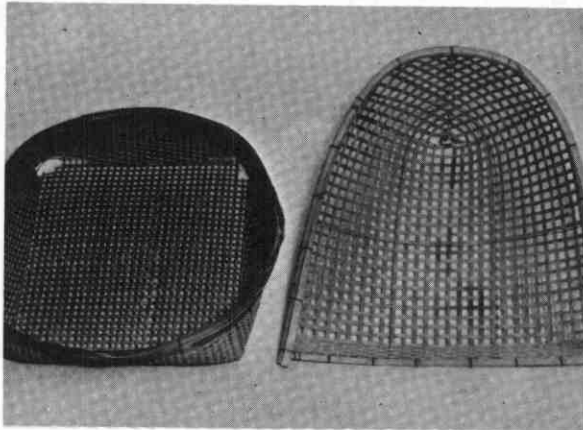
一九八五年（昭和六十年）より、民営バスから、貸切代替運行バスにかわり  
ました。

また、萩に鉄道がしかれたのは、一九二五年（大正十四年）です。山陰本  
線の全部ができたのは、一九三三年  
（昭和八年）のことです。

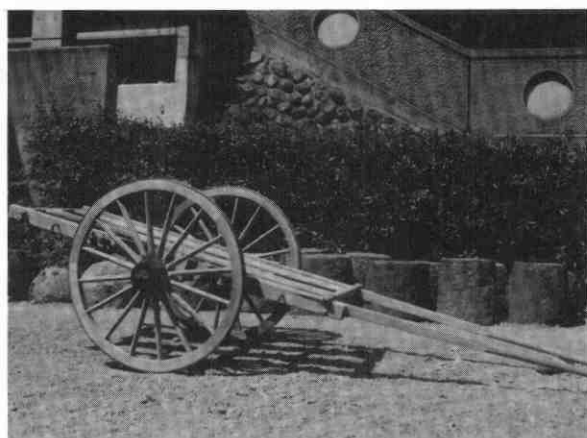
### （三） ぐらしのうつりかわり

しごととぐらし 昔のぐらびとのしごとのし  
かたは、今とはたいへんちがっていました。  
田や畑は、くわでたがやしたり、牛や馬につ  
けた、すきでたがやしたりしていました。

また、肥料や作物をもち運ぶには、「にこ」  
や、「とりのす」などの道具が、つかわれてい



たけどーし



ました。大正時代には、道はばもひろがり、村内を道路が通じるにしたがつて、牛や馬やりヤカーなどで、荷物を運ぶようになりました。朝早くから夕方<sup>がた</sup>くらくなるまで、田の草とり、器具<sup>きぐ</sup>の手入れなどして、はたらきました。

大 車

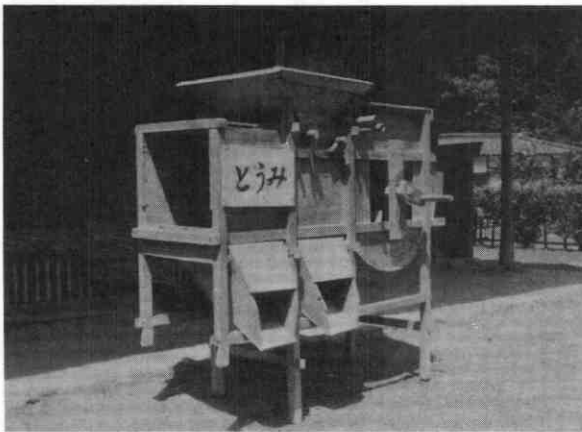
また、くらしに必要な<sup>ひつよう</sup>、みそやしょうゆなどは、たいてい自分の家で作っていました。家で作られないものは、菥<sup>せう</sup>に買いに行くか、商人<sup>しょう</sup>のもつてくるものを買っていました。そのころは、お米<sup>こめ</sup>などと行商人のもつてくるものをとりかえる物々交換<sup>ぶつぶつこうかん</sup>もされていました。今では、村にも、いろいろな品物をそろえた店がふえました。道路もよくなり、自家用車も多くなったので、菥<sup>せう</sup>に買いものに行くの

も便利べんりになりました。行商人も、自動車でたくさんの品物をもって、どの集落にも行くようになりました。

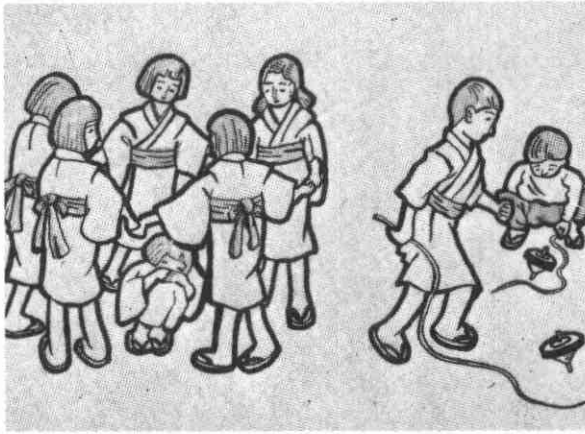
夜のあかりは、油をつかう、あんどんやランプでしたが、川上村の主なところころに、電灯でんとうがついたのは、一九一七年（大正六年）のことです。

おなじころに、萩では、電話でんわもつかえるようになりましたが、川上では、一九二八年（昭和三年）に役場に電話がつかえました。

一九六〇年（昭和三十五年）に電話機が十七台だいあつて、一九六九年（昭和四十四年）には、農集電話のうしゅうがつけられ、三百二十九台にふえました。一九七七年（昭和五十二年）一月から



とうみ



むかしの遊び

は、電話機が全部ダイヤル式にかえられました。

たのしみのうつりかわり おじいさんの子どもころと、今の人びとのたのしみは、どんなにちがっているでしょう。

昔は、おまつりがいちばんのたのしみでした。遠くへ行っている人も、かならず家に帰ってきました。子どもの遊びでは、たこあげこま・わまわし・おにごっこ・すごろく・かるた・まりつき・おてだまなどがありました。このごろは、テレビを楽しむことが多くなったので、にぎやかだったおまつりも、ただいに、さびしくなっています。そこで、村では、農作物の収しゅうかくを終おえた十一月に、川上

村ふるさとまつりを開いたり、スポーツをとり入れた大会を開いたりして、村民のけんこうづくりと楽しみをあわせてやっています。

今、川上村では、横坂の神明社の祭りの祭り（四月二十九日）・夏祭り（八月

十五日）・山田の実相寺の地藏祭り（八月

二十三日）・遠谷の秋祭りの神楽舞（十月

二十七・八日）などが、おこなわれています。

萩市では、住吉神社の夏祭りや、金谷天神

の祭りなどを、さかんにするよう、いろいろ

とくふうしています。最近では、萩市やまわ

りの町村がいつしよになって、北浦ふるさと

祭りをしています。

#### （四） これからの川上村



神明社の祭りの祭り



川上村のふるさと祭り

日本が、アメリカ合衆国がっしやうこくやそのほかの国くにと戦争せんそうをしたとき、川上村は、空くうしゅうでやかれずにすみましたが、食べるものや生活に必要なものが、たいへん少なくなりました。米や麦むぎなど配給制はいきゅうせいになり、麦ごはんやぞうすいを食

べたり、ごはんのかわりに、いもやかぼちゃなどを食べたりしました。学校の運動場うんどうじやうにもやさいなど植えられました。苦くるしい生活の中で、人びとはよくはたらき、少しずつ生活をよくしていききました。

そして、今、川上村は、緑きよの多い、水のきれいな村です。人口は少ないが、農林業を中心にして、村おこしにはげんでいます。また、名勝めいしょうの長門峡や阿武川ダムがありますので、

観光地としても、にぎわっています。一九八二年（昭和五十七年）に、武井  
谷・緑の村がオープンし、一九八三年（昭和五十八年）に野戸呂小・中学校  
のあと地に、障害者活動センター「川上すぎのこ村」が、オープンしました。  
そのため、近ごろでは、キャンプやレクリエ  
ーションなどで、遠くから村におどずれる人  
も多くなりました。これからも、りっぱな村  
づくりがおこなわれることでしよう。

けんこうで明るい、住みよい村として、発  
展していくためには、みなさんが力を合わせ  
て、村づくりにはげまなければなりません。



川上村の中心地区



## 六、村の民話

### (一) 長者が原の長者

昔、長門峡に、年とつた母と獵師りょうしのむすこが住んでいました。冬のある日、獵師は、えものをもとめて、長門峡の中ほどの淵ふちをとおりました。その淵は、その中に竜宮りゅうぐうがあるといいつたえられていることから、竜宮淵とよばれていました。

「もうし、もうし。」どこからともなく、やさしい声こゑがしました。獵師が、立ちどまると、若くて美しい娘むすめがあらわれ

「この淵のあたりは、化ばけものがでて、とおりがかる人をおそつて食べます。どうか、あなたの弓と矢で、たいじしてください。どんな望のぞみのものでも、さしあげます。」といつたかと思うと、すうつと消えてしまいました。毎日まいにち、化けものをたいじしようと、さがし歩きました。ある夕ゆふぐれどき、ついに、

化けものであいました。らんらんとした目、大きな口……

「おのれ、化けものめ。」獵師は、矢をはなちました。ギャーという声があがって、化けものは、たおれました。それは、全身銀色の大カワウソでした。

川まで引きずって行って、淵に投げすてました。その岩の上で、つかれから、ついうとうととしていると、このまえの若い娘があらわれ

「化けものをたいじしてくださいだったので、お礼にまいりました。この船にお乗りください。」ごてんについた獵師は、月日のたつのも忘れ、毎日、夢のようになすごしていましたが、やがて母のところへ帰りたくなりました。そのとき、おとひめたちから、たくさんの宝物をもらいました。村いちばんの長者となり、母としあわせにくらしたということです。獵師の住んでいたところを「長者が原」、カワウソを投げこんだ淵を「カワウソ淵」、竜宮へ向けて、船を出したあたりを「江舟」と名づけられ、今もその地名があります。

(二) 空かける魔鬼まおに

今から四百年も昔の話です。ある夏の夜、ひとりの若者わかものが、とつぜん、はらをおさえて苦くるしみはじめ、手当てあてのかいもなく、あつというまに、死しんでしまいました。ちょうど同じ時間に、その若者の家から、あやしい煙けむりがたちのぼり、おそろしい化ばけものがあらわれました。ぶきみななき声が、村の空そらをかけめぐりました。

朝あさになつて、村の人びとは、びっくりしました。体からだをひきさかれた、牛うしや馬うまの死しがい、病び氣きになつた村の人びと、貧まずしいけれども平和へいわな村だつたのに悪魔あくまの住む村となつたのです。人びとは、わけのわからないままに、つぎつぎと、死んでいきました。

さいしよに死んだ若者の仲間なかまに、弓矢のじょうずな三人の若者がいました。さいわいに、この三人の若者は、まだ、元氣げんきだつたので、化けものをたいじ



してやろうと相談し、村はずれの家に、よくふとつた牛をおいて、弓に矢を  
つがえて、いまかいまかとまっつていました。

そのうちに、なまぐさい風がふき、おそろしい声がひびき、化けものす  
るといつめが、屋根をけやぶり、牛をめがけて、おそいかかりました。三人  
は、いつせいに矢をはなちました。ねらいたがわず、化けものにあたり、青  
黒い血をのこして、深い谷間に消えていきました。

二日後、家の前の川に今まで見たこともない、大うなぎが流れていました。  
何かの霊にちがいないと、神明さまにまつりました。それからというものは  
病気にかかる人は、いなくなりました。病的を化けものにみたてて、矢を  
いるという、横坂の神明社の「的祭り」の行事は、昔のいいつたえをまもり  
いつまでも続くことでしよう。

# 川上村の歴史年表

武士の世の中			きぞくの世の中		大むかし	時代	
江戸	室町	鎌倉	平安	奈良			
一六九八	一六五五	一六〇八	一五九四	一五五七	一四一七	せいれき	
● 椿村の支ごう川上村・野戸呂村・えひね村と本にのる	● 惣ノ瀬がまをひらいたという	● 実相寺がたつ(山田)	● 村は椿東西の川上という	● 萩城ができる	● 福寿院がたつ↓福昌院(遠谷)	● 毛利元就が周防長門を平定	● 梅岳寺がたつ(立野)
						七〇一	● 阿武郡の戸数千戸以下
						一一八七	● そま板を切りだしはじめる
							● 石器や土器を使った 米づくりをはじめめる

新しい時代			武士の世の中		時代		
明治			江戸				
一八八九	一八七九	一八七五	一八七三	一八七二	一八七一	せいれき	
● 町村制施行	● 戸長役場を置く(十八行政区)	● 高瀬は支校となる	● 萩場は支校となる	● 野戸呂支校開校	● 萩場に川上小学校を移転	● たいこわんせきのいつきおこる	
						一八一	● 平助、権左衛門の二人がいつきの責 任者としてしょけいされる
						一八三二	● 長者原村でいつきがおこる
						一八三六	● 大洪水、家が七十軒余り流失
						一八四九	● 萩の江向に明倫館ができる
						一八五五	● 吉田松陰が松下村塾をひらく
						一八六七	● 江戸幕府がほろんで天皇中心の政治 がはじまる
							● 藩をやめて山口県ができた
							● 学制発布
							● 高瀬に川上小学校をたてる
							● 相原で石灰石をほりはじめめる
							● 立野支校開校

新 し い 時 代			時 代														
大 正		明 治															
一九二五	一九二四	一九二三	一九二二	一九二一	一九二〇	一九一八	一九一七	一九一六	一九一五	一九一四	一九一三	一九一二	一九一〇	一九〇〇	一八九二	せ い れ き	で き ご と
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 川上で養蚕がはじまる</li> <li>● 白上原を田にかいたくする</li> <li>● いまの長門峡を「長門やばけい」と命名</li> <li>● 萩―小郡間に乗合自動車走る</li> <li>● 萩―東萩間にバスが通る</li> <li>● 萩―東萩間に鉄道開通</li> <li>● 萩―萩間にバスが通る</li> <li>● 萩―萩間に電灯がつく</li> <li>● 江舟・野戸呂に電灯がつく</li> <li>● 山田けいゆ萩―明木間のバスが通る</li> <li>● 「長門峡」を名勝地指定</li> <li>● 川上ゆうびん局で電信をはじめ</li> <li>● 玉泉寺がたつ(灰福)</li> <li>● 阿武川下り客舟組合できる</li> <li>● 相原の大火で役場などやける</li> <li>● 萩―山田―明木の道路ができる</li> <li>● 「長門やばけい」を「長門峡」と改める</li> <li>● 二義民のひをたてる</li> <li>● 萩―萩間にバスが通る</li> </ul>																	

新 し い 時 代			時 代																												
昭 和		昭 和																													
一九四七	一九四六	一九四五	一九四二	一九四一	一九四〇	一九三九	一九三三	一九三二	一九三一	一九三〇	一九二八	一九二七	一九二六	一九二五	一九二四	一九二三	一九二二	一九二一	一九二〇	一九一九	一九一八	一九一七	一九一六	一九一五	一九一四	一九一三	一九一二	一九一〇	一八九二	せ い れ き	で き ご と
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「川上村のムクゲ群落」天然記念物に指定</li> <li>● 高瀬―渦ヶ原間バス開通</li> <li>● 発昌寺がたつ</li> <li>● 山陰本線が全通する</li> <li>● 立野小学校八道文庫開館</li> <li>● 藤蔵・惣良台大火百余戸全焼</li> <li>● 山林千五百町歩焼失</li> <li>● 萩―長門峡間バス開通</li> <li>● 太平洋戦争起る</li> <li>● 「川上村のユズおよびナンテン自生地」を天然記念物に指定</li> <li>● 萩に保健所ができる</li> <li>● 広島・長崎に原子爆弾落とされる</li> <li>● 戦争がおわる</li> <li>● 農地かいかくが行われる</li> <li>● 新憲法ができる</li> <li>● 国民学校を小学校とあらためる</li> </ul>																															

(六、三、三、四制となる)









## あとがき

小学校三年の郷土川上の学習、四年の萩市の学習のためにつくられた、社会科の副読本「かわかみ」ですが、初版から十年の年月がたち、村や萩市のようすも、大きくかわりましたので、改訂することになりました。

このたびは、子どもだけでなく、一般の人にも読んでもらおうと思つて、編集しましたので、中には少しむずかしいところもあると思いますが、先生やおうちの人に教えてもらつて、村のことをよく知り、村を愛する人になつてください。

昭和六十一年九月

川上村立川上小学校長

鍵

村

勝

わたしたちの村  
かわかみ (改訂版)

初版

昭和五十二年三月 発行

改訂版

昭和六十一年九月 発行

編集

川上村教育委員会  
川上村立川上小学校

印刷 (株) 北よひせい

へ中国支社

広島市中区八丁堀二番六号

電話(〇八二)三二一六七二(代)







